



## 48 ボリビア パタカマヤ～タンボケマド間 道路改良事業

内陸国ボリビアの輸出入貿易  
ルートの確保に貢献

承諾額／実行額 39億円5,500万円／38億1,300万円  
 借款契約調印 1992年10月  
 借款契約条件 金利3.0%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド  
 貸付完了 2001年2月  
 実施機関 道路公団 URL: <http://www.snc.gov.bo>



### 本事業の目的

内陸国であるボリビアにおいて、隣国チリのアリカ港に通じる道路の改修等を行うことにより、貿易ルートの確保を図り、同国の経済社会活動の活性化に寄与することを目的とする。

### 本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価 a

本事業実施前において、敷設されていた道路は未舗装の土道と砂利道であったため走行性が低く、雨季になると年間約180日程度、断続的に通行できない状態になっていた。本事業完成により当該道路は完全に舗装され、通行にかかる問題は解消され、また大幅な所要時間の短縮や走行費用の節減も実現したことが確認されている。本事業実施により、交通量が増大し、チリとの国境貿易における1998年の輸出額は1992年比112%であり、2004年まで年平均約120%増加している。同時期の輸入額はその絶対額が少額であるものの、事業実施後飛躍的に増加していることがわかった。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

### 本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価 a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。事後評価時では、2005年におけるボリビア国内幹線道路舗装率は36%と依然低く、基幹道路整備は国の重点課題として掲げられている。本事業対象区間を含む国道4号線を經由して行わ

れる輸出のための貨物輸送は他の道路に比べ多く、本事業対象道路は隣国チリのアリカ港に通じる最短ルートとして引き続き重視されている。

### 事業実施の経済性(効率性) 評価 b

本事業は、事業費は計画を下回ったものの(計画比82%)、期間については計画を大幅に上回ったため(計画比348%)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の主な要因としては業者の選定および着工、スベアパーツ調達手続きに時間を要したこと、追加工事が発生したこと等が挙げられる。

### 今後の展望(持続性) 評価 a

実施機関の能力、維持管理体制、財務面ともに問題なく、高い持続性が見込まれる。

### 結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は非常に高いといえる。本事業は、事業計画段階において、本事業対象道路の利用目的をふまえ、事前に交通量等のデータの検証・把握に努めたことが高い有効性の確保につながった。事後評価時では、本事業対象道路の維持管理業務は各県の道路局に移管されることが予定されているが、地方分権化に伴う組織変更等の影響で移管作業に時間を要していることが確認されている。今後、移管状況のモニタリングを適時に行っていくことが望まれる。

### 開発途上国専門家の意見

内陸国ボリビアにとって太平洋につながる舗装道路整備は半世紀にわたる重要な国家目標であった。地方と近代的な港を結ぶ本事業の重要性は高く、またその維持管理体制等に問題はない。

専門家の氏名： Mr. Raul Peñaranda Undurraga (マスコミ)  
 アンデス大学卒(ジャーナリズム)。ジャーナリスト。2002年にボリビア・ジャーナリスト協会よりザ・フランツ・タマヨ・メダルを受賞。  
 ニエバ・エコノミア誌およびラ・エポカ誌の創設者。現在、ラ・エポカ誌の編集長。



本事業実施前に利用されていた旧道(サハマ付近)